

【日時】平成28年5月18日(水) 13:00~14:30

【場所】一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 会議室

【取材先】

杉山幸男氏

元 練馬区学童クラブ指導員。30年余りにわたって社会教育指導員として、児童館・学童保育の現場で活躍。

杉山真美子氏

元 練馬区学童クラブ指導員。30年余りにわたって社会教育指導員として、児童館・学童保育の現場で活躍。現在は練馬区教育委員会事務局こども家庭部子育て支援課在職。



【主なご意見など】

◆学童保育は教育(あるいは学校に代表される公教育)の場ではなく、あくまでも生活の場  
⇒年齢構成や目的が教育とは全然違うもの。現在の学校教育のような観点は取り払った柔軟な発想を持つ必要がある。

◆子どもと指導員との関わり方について

⇒指導員と関わる時、教師と生徒といった関係でなく、親を含めた「大人」と関わるような形で子どもは対峙している(向き合っている)。普段の生活態度などを子どもが敏感に感じ取っているため、指導員の考え方が問われる。親、指導員が子供と一緒にそのことを学んでいく、考えていくというスタンスが大前提になるのでは。

◆プログラムの内容やツールについて

⇒指導員自身がどう意識を持っているかが重要。問題は何なのか、伝えたいことは何なのか、子どもと共に考えていき、なおかつ体験していくのが一番良いと思う。同じメンバーで毎日繰り返し続けられるということは学童の強み。日常の出来事の中に一言、疑問を投げかける、言葉を足すといった些細なことでも将来へ繋がる可能性は十分ある。

◆練馬区における学童の実態

⇒区直営も民間委託も平等に情報が行き渡るような体制である。研修は年間10数回程度実施しているので、そのコンテンツのひとつとして、環境を入れるということは検討の余地があるのではないかと思う。